

**【調査B】**  
**在宅生活改善調査**  
**集計結果**  
**(中間)**

2023/01/17

# 【在宅生活改善調査】

## 調査の目的

- ・在宅生活改善調査では、自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数、②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
- ・調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

## 調査の概要

- ・調査時期：2022年11月
- ・対象：居宅介護支援事業所 16事業所（管理者・ケアマネージャーが回答）
- ・回収数：11件（回収率 68.8%）
  - ・各ケアマネージャーが担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答。
  - ・それぞれのケアマネージャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。

## 注目すべきポイント

- ・過去1年間で、自宅等から居所を変更した人（住み慣れた住まいで暮らすことができなくなった人）は、どの程度いるか？
- ・現在、生活の維持が難しくなっている人は、どのような人で、どの程度いるか？  
（継続的に調査し、その人数を減らすことはできないか）
- ・生活の維持が難しくなっている理由、生活改善に必要な支援・サービスは何か？  
（サービス提供体制の構築方針の検討）

※ 特に生活の維持が難しくなっている理由や、必要な支援・サービスについては、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに関係者間での議論を通じて検討することが重要です。

# 1. 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

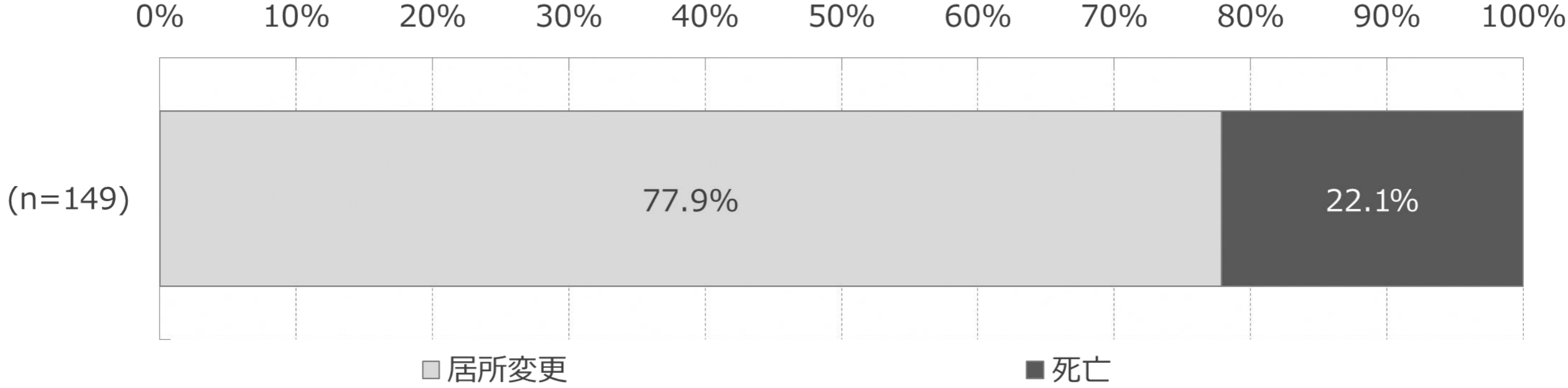
回答のあった11事業所分

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	2人	6人	8人
	1.7%	5.2%	6.9%
住宅型有料老人ホーム	6人	3人	9人
	5.2%	2.6%	7.8%
軽費老人ホーム	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サービス付き高齢者向け住宅	3人	0人	3人
	2.6%	0.0%	2.6%
グループホーム	2人	0人	2人
	1.7%	0.0%	1.7%
特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型特定施設	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	25人	9人	34人
	21.6%	7.8%	29.3%
療養型・介護医療院	3人	0人	3人
	2.6%	0.0%	2.6%
特別養護老人ホーム	38人	3人	41人
	32.8%	2.6%	35.3%
地域密着型特別養護老人ホーム	3人	0人	3人
	2.6%	0.0%	2.6%
その他	12人	0人	12人
	10.3%	0.0%	10.3%
行先を把握していない			1人
			0.9%
合計	94人	21人	116人
	81.0%	18.1%	100.0%

(注)「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

## 2. 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合

回答のあった11事業所分



過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者数（粗推計）



**169人**

過去1年間に自宅等で死亡した利用者数（粗推計）

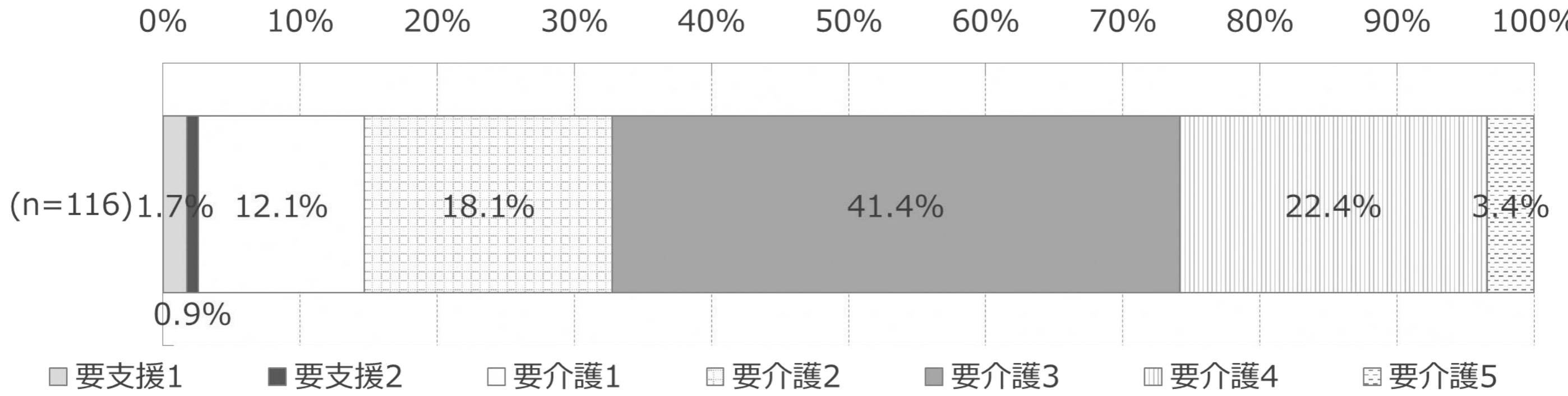


**48人**

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。  
(注2) 「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

### 3. 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳

回答のあった11事業所分

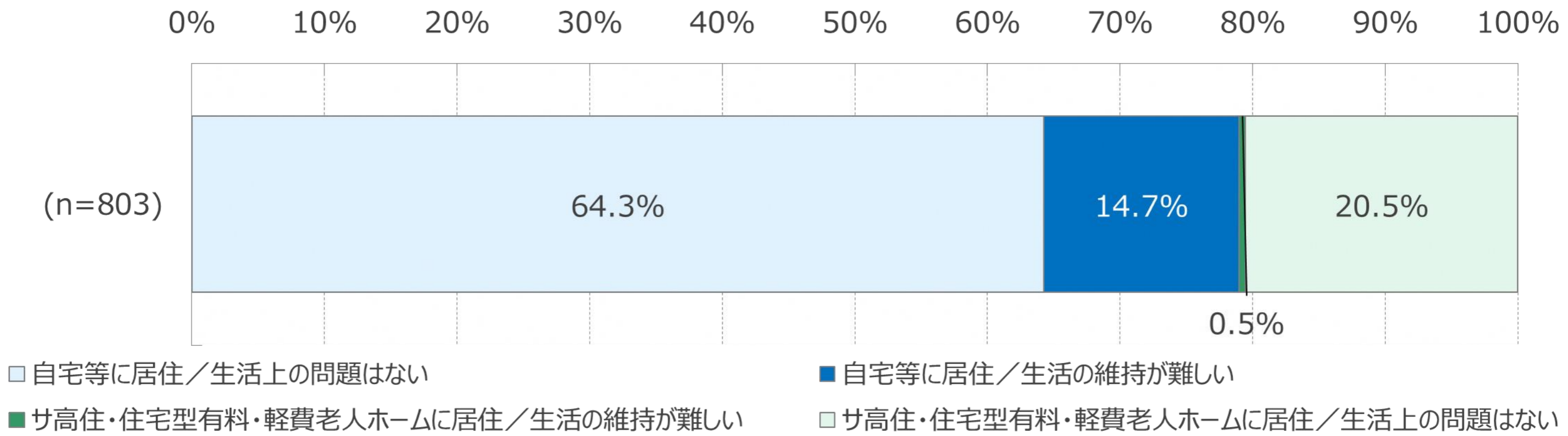


- 要介護3が41.4%で最も多く、要介護3以上の介護度が7割近くを占めており、自宅での生活が続けられなくなっている人は中・重度の要介護度が中心
- しかしながら、軽度でも自宅での生活を続けられなくなっているケースが一定数ある

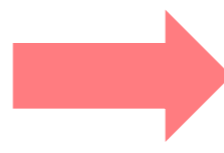
(注) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

# 4. 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

利用者についての回答のあった10事業所分

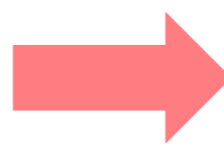


自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに  
居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合



**15.2%**

在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数（粗推計）



**177人**

(注) 「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

# 5. 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

## 利用者についての回答のあった10事業所分

順位 (上位10類型)	回答数	粗推計	割合	世帯類型				居所			要介護度	
				独居	夫婦のみ 世帯	単身の子ど もとの同居	その他世帯	自宅等(持 ち家)	自宅等(借 家)	サ高住・住 宅型有料・ 軽費	介2以下	介3以上
1	37人	54人	30.3%	★				★			★	
2	14人	20人	11.5%		★			★				★
3	13人	19人	10.7%	★				★				★
4	13人	19人	10.7%				★	★			★	
5	11人	16人	9.0%			★		★			★	
6	11人	16人	9.0%			★		★				★
7	10人	15人	8.2%				★	★				★
8	3人	4人	2.5%		★			★			★	
9	2人	3人	1.6%	★					★		★	
10	2人	3人	1.6%				★		★		★	
上記以外	6人	6人	4.8%									
合計	122人	177人	100.0%									

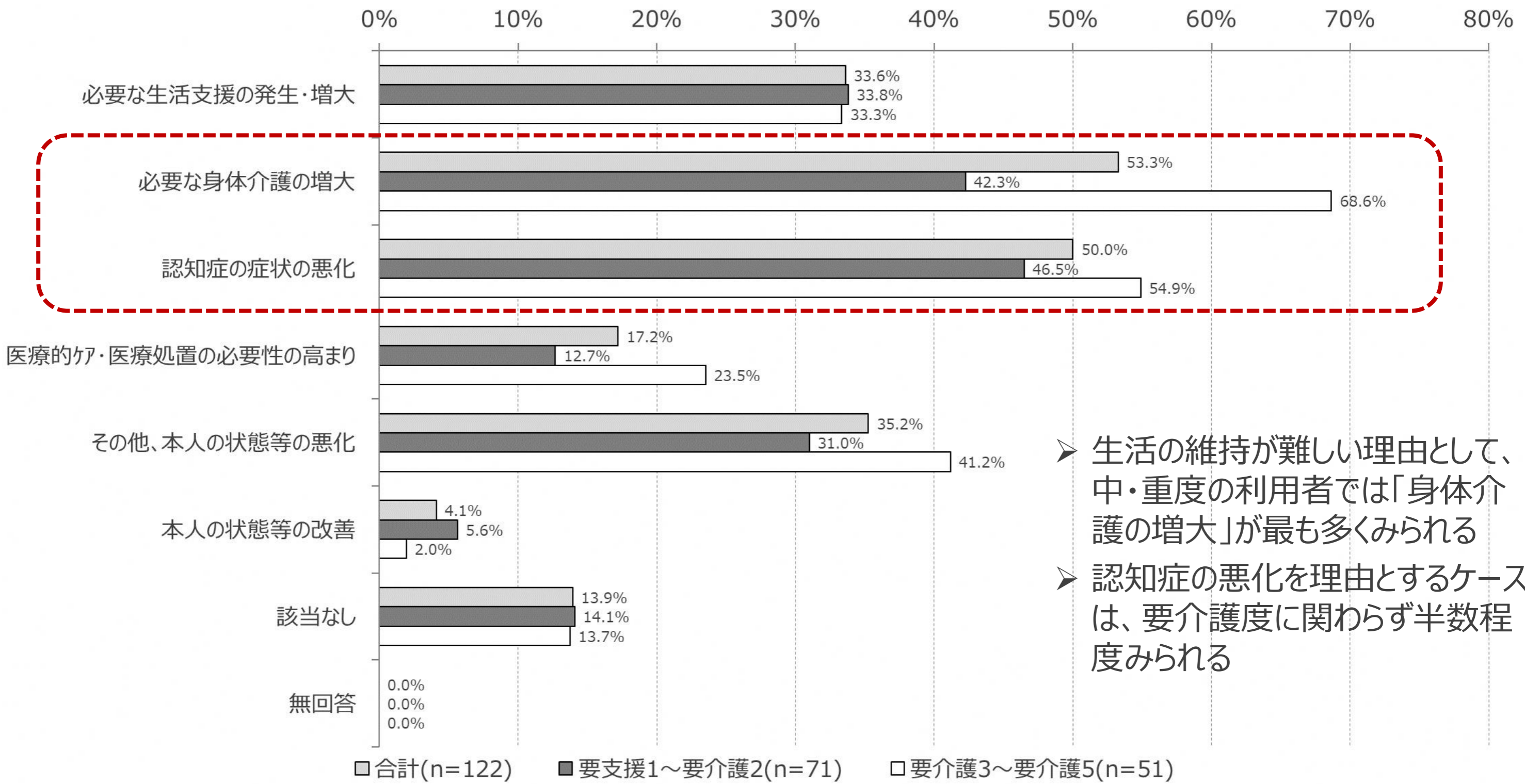
- 在宅生活の維持が難しくなっている利用者は独居や夫婦のみの世帯が多い
- 要介護度2以下でも、独居世帯の利用者が在宅生活の維持が難しくなっているケースが最も多くみられる

(注) 「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。



# 6. 生活の維持が難しくなっている理由

## ① 本人の状態に属する理由（複数回答）

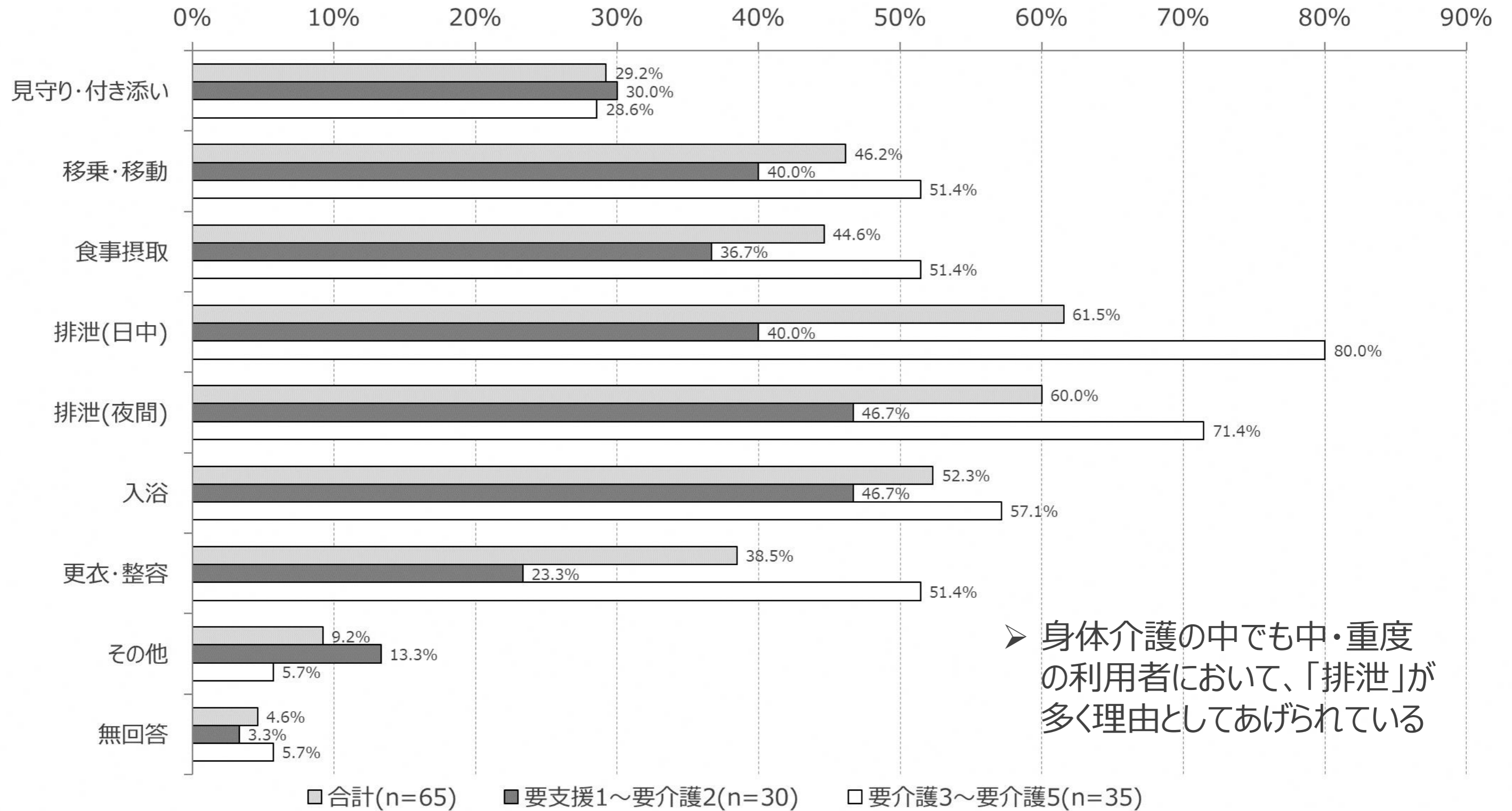


- 生活の維持が難しい理由として、中・重度の利用者では「身体介護の増大」が最も多くみられる
- 認知症の悪化を理由とするケースは、要介護度に関わらず半数程度みられる

(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

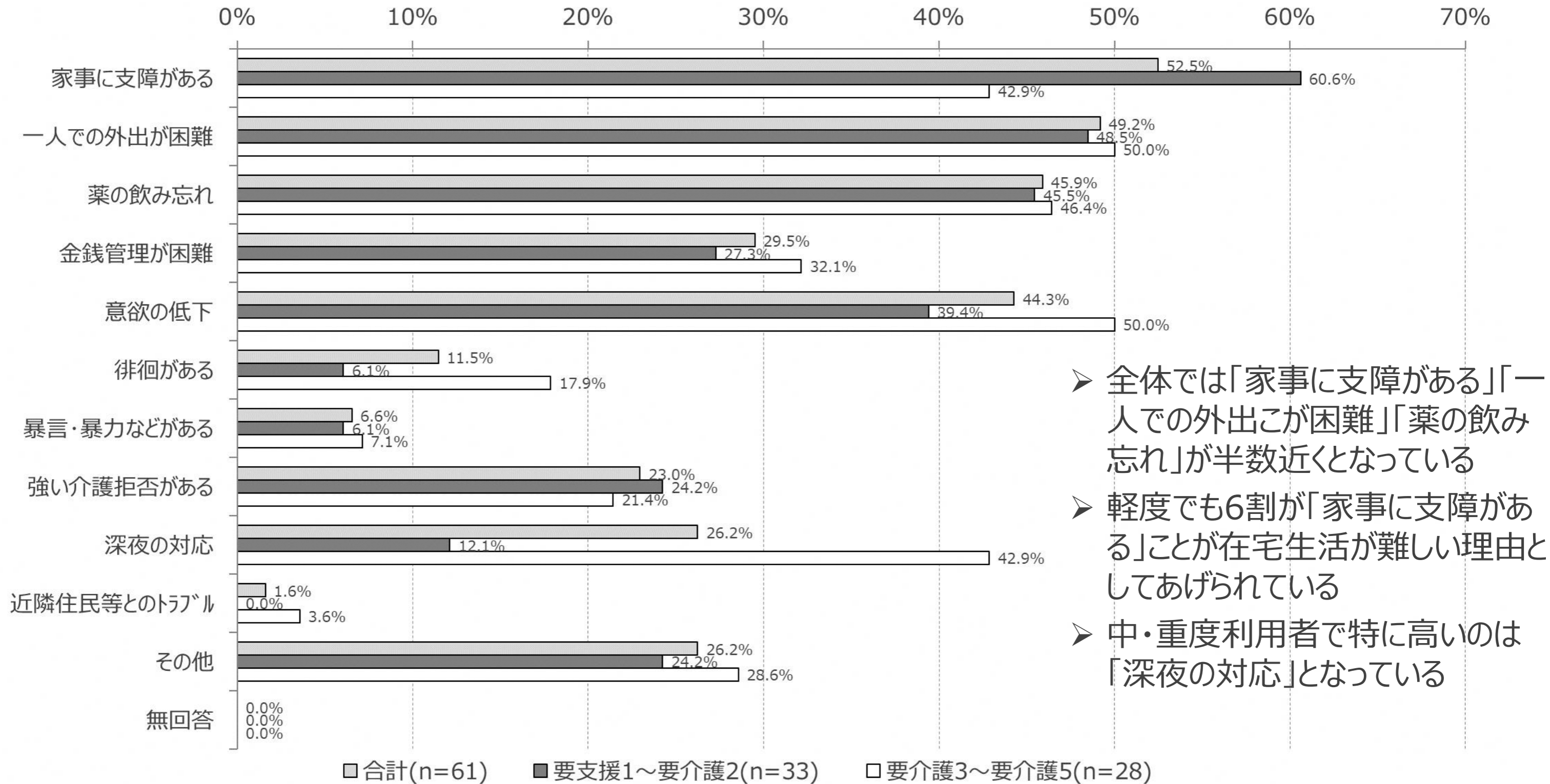


# 「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

# 「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容（複数回答）

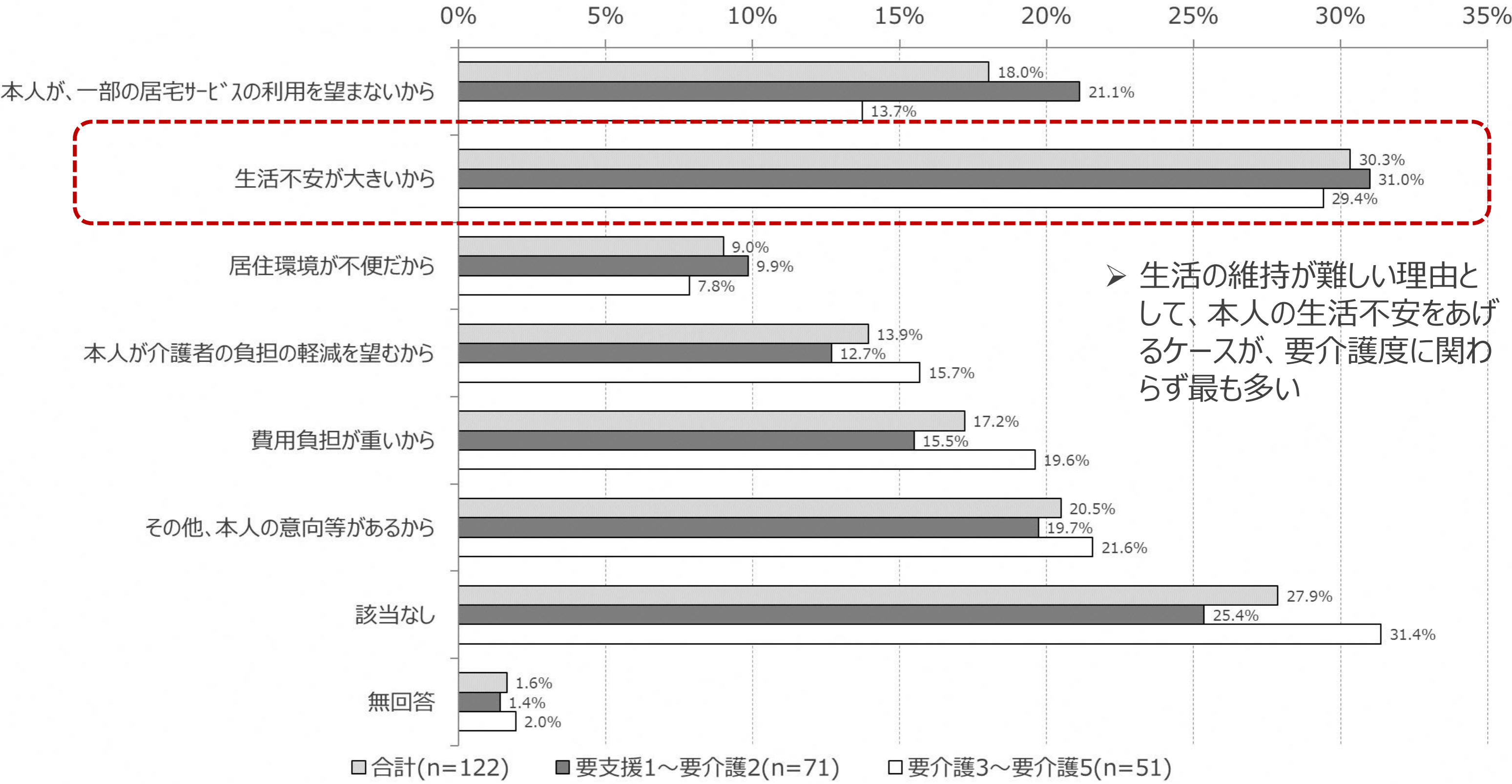


- 全体では「家事に支障がある」「一人での外出が困難」「薬の飲み忘れ」が半数近くとなっている
- 軽度でも6割が「家事に支障がある」ことが在宅生活が難しい理由としてあげられている
- 中・重度利用ユーザーで特に高いのは「深夜の対応」となっている

(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

# 6. 生活の維持が難しくなっている理由

## ② 本人の意向に属する理由（複数回答）

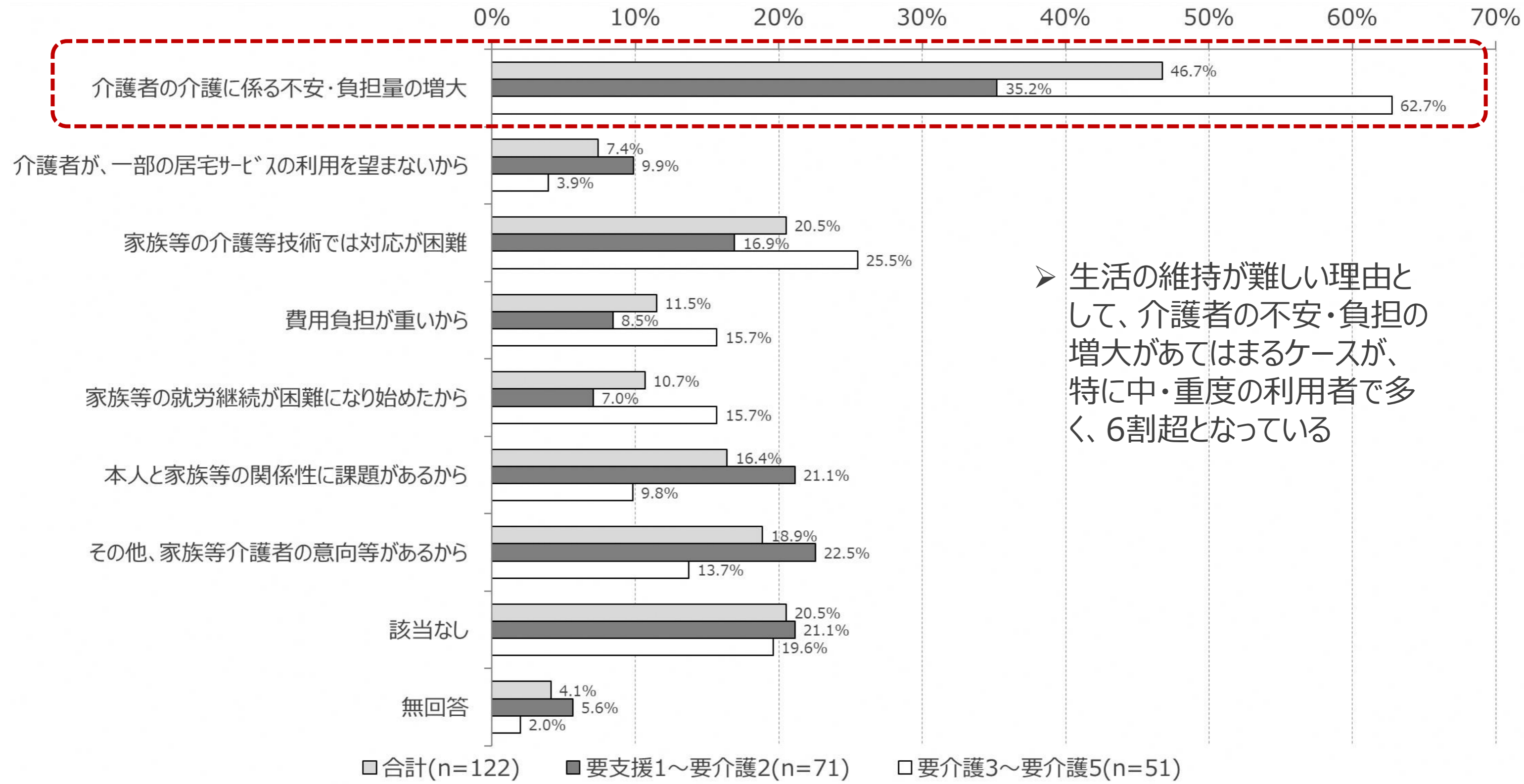


➤ 生活の維持が難しい理由として、本人の生活不安をあげるケースが、要介護度に関わらず最も多い

(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

# 6. 生活の維持が難しくなっている理由

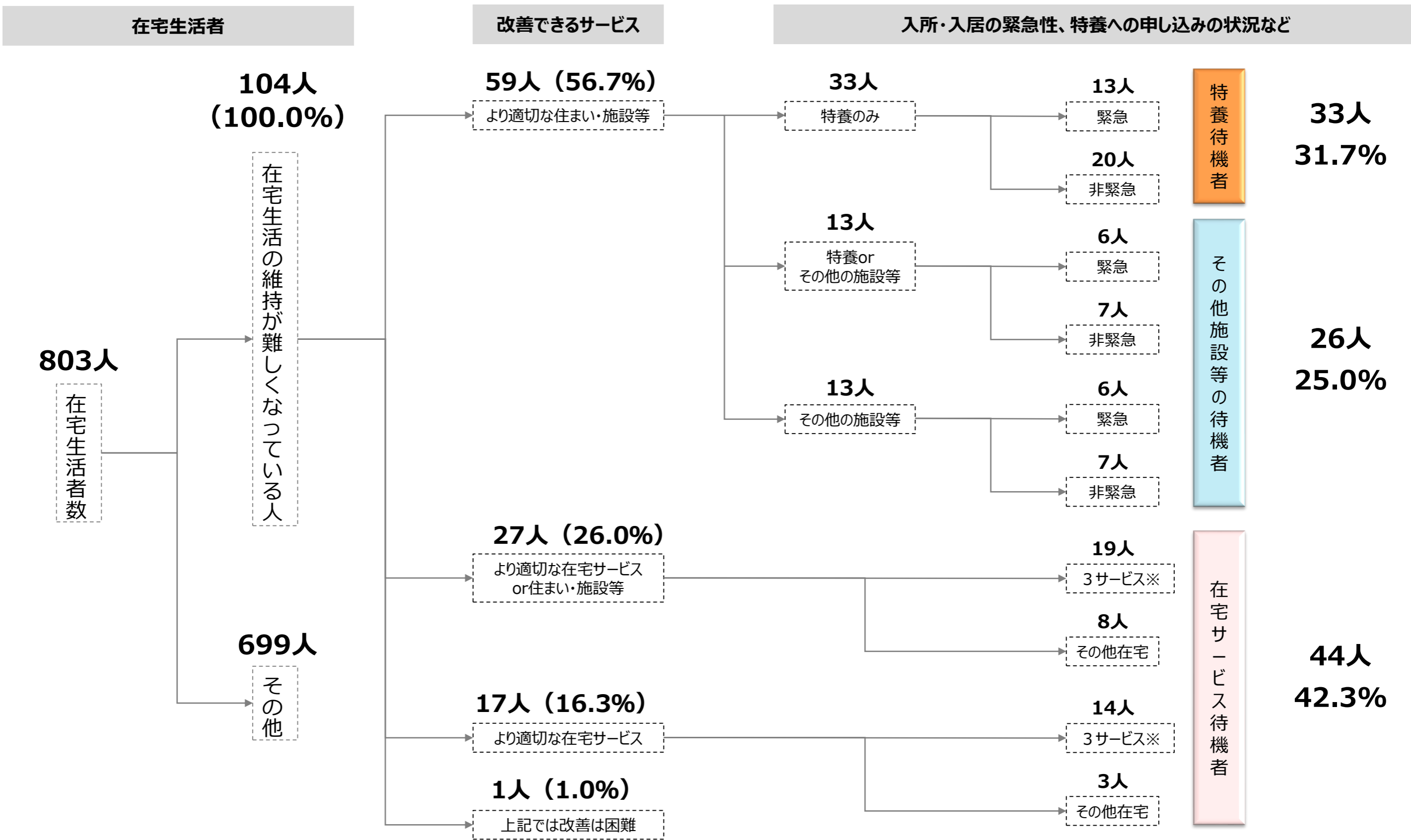
## ③ 家族等介護者の意向・負担等に属する理由（複数回答）



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。



# 7. 「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



※3サービス：「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「小規模多機能型居宅介護」、「看護小規模多機能型居宅介護」の3つのサービス

(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。  
 (注2) 「生活の維持が難しくなっている人」の合計122人のうち、上記の分類が可能な104人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合は、104人を分母として算出したものです。  
 (注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。

# 「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の 生活の改善に必要なサービス（複数回答）

	その他施設等の待機者(26人)			在宅サービス待機者(44人)		
住まい・施設等	住宅型有料	1人	3.8%	住宅型有料	2人	4.5%
	サ高住	3人	11.5%	サ高住	5人	11.4%
	軽費老人ホーム	3人	11.5%	軽費老人ホーム	3人	6.8%
	グループホーム	14人	53.8%	グループホーム	6人	13.6%
	特定施設	2人	7.7%	特定施設	1人	2.3%
	介護老人保健施設	10人	38.5%	介護老人保健施設	7人	15.9%
	療養型・介護医療院	3人	11.5%	療養型・介護医療院	5人	11.4%
	特別養護老人ホーム	13人	50.0%	特別養護老人ホーム	11人	25.0%
在宅サービス	-			ショートステイ	11人	25.0%
				訪問介護、訪問入浴	6人	13.6%
				夜間対応型訪問介護	2人	4.5%
				訪問看護	5人	11.4%
				訪問リハ	5人	11.4%
				通所介護、通所リハ、認知症対応型通所	9人	20.5%
				定期巡回サービス	18人	40.9%
				小規模多機能	22人	50.0%
				看護小規模多機能	10人	22.7%

生活の改善に向けて、代替が可能



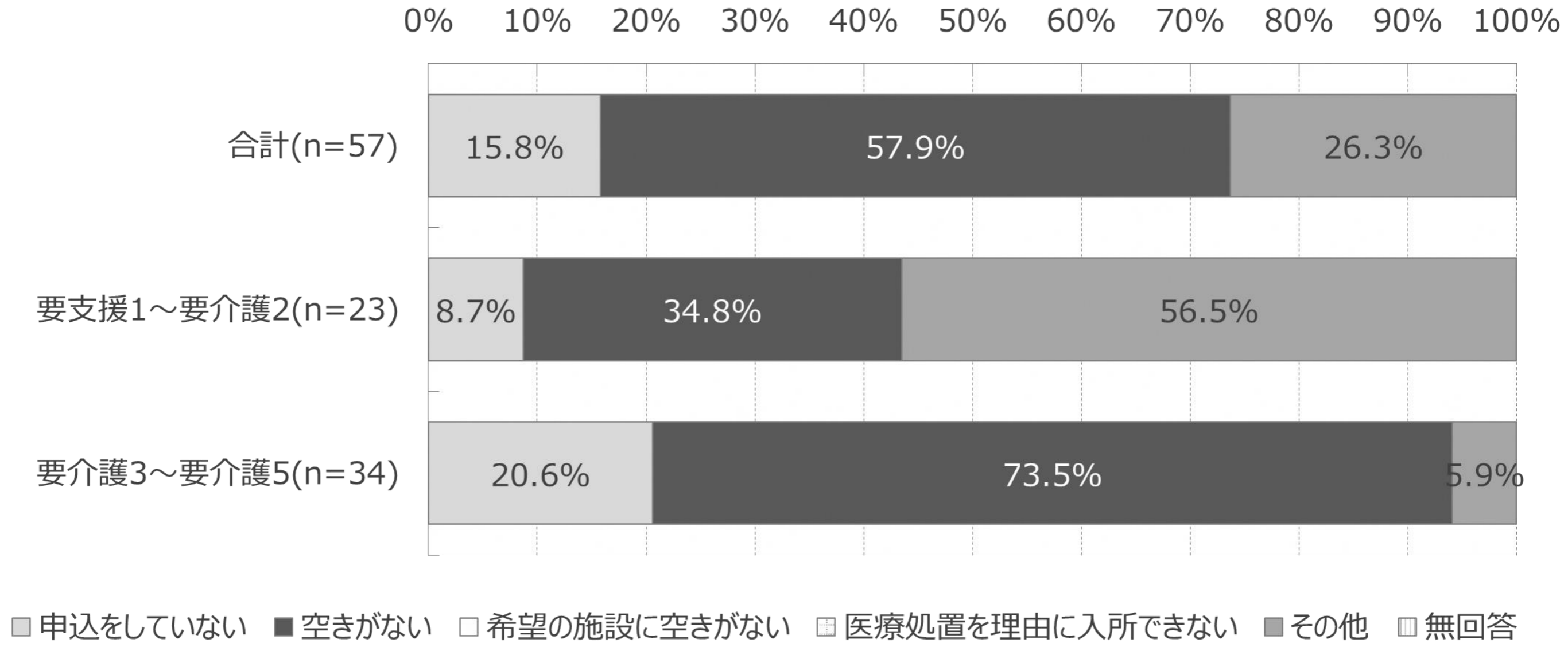
(注1) 割合は、それぞれ、その他施設等の待機者26人、在宅サービス待機者44人を分母として算出したものです。

(注2) 「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としています。



# 8. 施設に入所できていない理由

## ① 特別養護老人ホーム

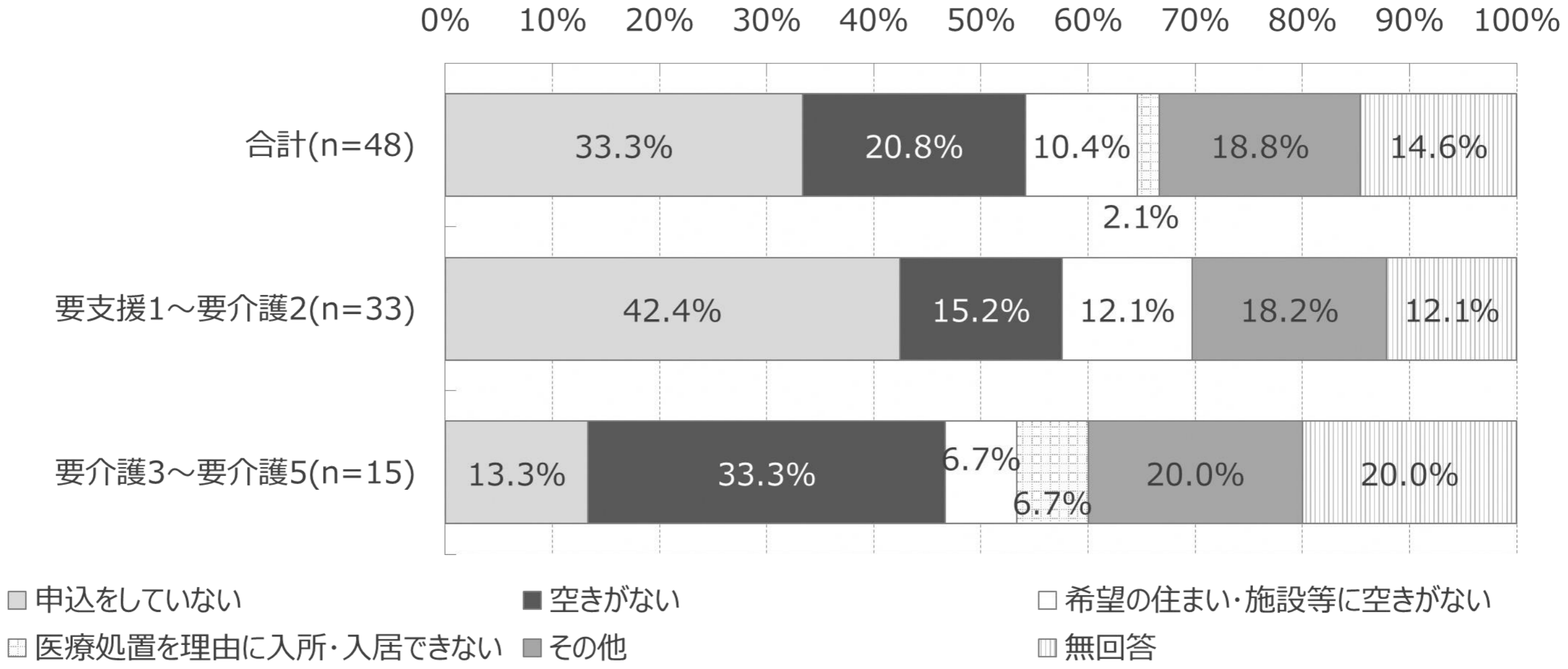


➤ 特養に入所できない理由として、全体の6割近くが「空きがない」をあげており、中・重度利用者においては7割以上となっている

(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

# 8. 施設に入所できていない理由

## ②特養以外の住まい・施設等



➤ 在宅生活の改善のために特養以外の住まい・施設の利用が適切とされる利用者が、現在入所できていない理由は、「申請をしていない」が最も多い。次いで、「空きがない」となっている

(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。